

平成 25 年度

香川大学大学院地域マネジメント研究科
アドバイザー・ボード会議報告書

平成 26 年 6 月

目 次

アドバイザー・ボード委員名簿.....	2
アドバイザー・ボード日程.....	3
Ⅰ. アドバイザー・ボード記録（平成 26 年 6 月 18 日）.....	4
Ⅱ. 説明資料.....	20
Ⅲ. 出欠表.....	22

アドバイザー・ボード委員名簿

経済界 (五十音順)	(委員長) 木村 大三郎	ネットヨタ高松(株) 代表取締役会長 香川経済同友会 特別幹事
	家高 順一	四国電力(株) 取締役副社長
	鴻池 正幸	大倉工業(株) 元相談役
	竹崎 克彦	(株)百十四銀行 会長 高松商工会議所 会頭
	松田 清宏	四国旅客鉄道(株) 代表取締役会長 四国ツーリズム創造機構 会長
行政 (五十音順)	大西 秀人	高松市 市長
	天雲 俊夫	香川県 副知事
大学	王 効平	北九州市立大学大学院 マネジメント研究科 研究科長

アドバイザー・ボード日程

期 日：平成 26 年 6 月 18 日（水） 11：30～12：30

会 場：香川大学幸町キャンパス又信記念館 2階 第2会議室

議 事

11：30 開 会

研究科長挨拶

配布資料の確認

アドバイザー・ボード委員の紹介

地域マネジメント研究科出席者の紹介

11：45 認証評価・課題解決計画報告

12：05 平成 25 年度事業報告

12：20 審 議

12：30 閉 会

I. アドバイザリー・ボード記録

板倉： 香川大学大学院地域マネジメント研究科 平成 25 年度アドバイザリー・ボードを開催させていただきます。

最初に、私からご挨拶をさせていただきます。平成 23 年 4 月より研究科長を務めさせていただいております、板倉でございます。まずお礼を申し上げさせていただきます。委員の皆様にはご多忙の中、お足元の悪い中、お集まりいただきまして誠にありがとうございます。深くお礼申し上げます。本ボードは、平成 16 年度の地域マネジメント研究科の開設と共に発足し、今回が 10 回目となります。代々の委員の方には当研究科の運営に関しまして貴重なご意見を頂き、今日まで支えていただいております。

現在、委員をお願いしておりますのは、JR 四国取締役会長であり、四国ツーリズム創造機構会長でもあります、松田清宏（マツダ キョヒロ）様、百十四銀行会長であり、高松商工会議所会頭 竹崎克彦（タケサキ カツヒコ）様で、香川県副知事 天雲俊夫（テンクモ トシオ）様、今回より、北九州市立大学大学院マネジメント研究科 研究科長 王 効平（オウ コウヘイ）先生にもお引き受けいただけることとなりました。また、四国電力取締役副社長 家高 順一（イエタカ ジュンイチ）様の代理で、執行役員 経営企画部調査役の馬場一壽（ババ カズヒサ）様、高松市長 大西秀人（オオニシ ヒデト）様の代理で、政策課主幹 猪原良輔（イハラ リョウスケ）様となっております。なお、本日は止むを得ないご事情でご欠席でございますが、委員長をお願いしております、ネットヨタ高松代表取締役会長であり、香川経済同友会特別幹事でもあります、木村大三郎（キムラ ダイザブロウ）様、委員では、大倉工業元相談役 鴻池正幸（コウノイケ マサユキ）様、がいらっしゃいます。それぞれにご要職にありながらこのようにお力添えをいただいておりますことを、重ねてお礼申し上げます。本日は委員長の木村様にご欠席でございますので、松田様に議長代理をお願いしたいと思います。どうぞ、よろしく願いいたします。

松田： 本来は、委員長が議長を務めますが、本日、木村委員長にご欠席ですので、私が委員長代理を務めさせていただきます。ご協力のほどよろしくお願い致します。

先ほど板倉研究科長のご挨拶にもありましたように、今回はビジネススクールの現状を把握し、ご意見をいただくことが趣旨ですので、これからの進行は大学側に進行をおまかせしたいと思います。

それではよろしく願いいたします。

板倉： 以降は、進行を務めさせていただきます。

それでは、運営について説明をさせていただく前に、恐縮ではございますが委員の皆様にご自己紹介を賜ればと思います。それでは松田様より席順でご紹介をお願いします。

松田： JR 四国の松田でございます。当研究科には大変お世話になっております。特に去年からは、四国ツーリズム創造機構と四経連と一緒になりまして、当研究科で提供講座というかたちで観光学の解説をさせていただいております。

本日はどうぞよろしく願いいたします。

馬場： 四国電力の馬場でございます。本日は副社長の家高が外せない出張がございまして、私が代理で参りました。私は経営企画部の調査役ということで、事業環境や産業経済動向の調査と一緒に四国地域に基盤を置きます電力会社として、地域共生という観点、地域の活性化に少しでもお役に立てないかという視点からの仕事もしております。

どうぞよろしく願いいたします。

竹崎： 百十四銀行の竹崎でございます。当研究科創設以来お世話になっております。香川県だけではございませんが、現在、地域が抱えております大きな問題は様々なものが山積しております。この研究科が、当初の設立の目的をさらに膨らませて地域活性化のお役に立てるような組織に育っていただければ、また、私どももそのお手伝いをさせていただければと思っております。

どうぞよろしく願いいたします。

天雲： 香川県副知事の天雲でございます。香川県からこのビジネススクールに毎年学生を派遣させていただいております。また、創立以来何かとご縁がございまして。今後とも、ご活躍を期待しながら、また、ひいては香川県が元気になるようにしたいと思っておりますので、今後ともどうぞよろしく願いいたします。

猪原： 高松市政策課 猪原と申します。本年 4 月の異動で政策課へ替わってまいりました。本日は市議会の本会議開催中ということで、市長を始め上層部が出席しておりますので代理で参りました。

どうぞよろしく願いいたします。

王： 北九州市立大学大学院マネジメント研究科 王 効平と申します。私どものスクールは、初代研究科長の井原先生、研究科長の板倉先生にいろいろご教授いただき設置することが出来たという経緯がございまして。10 周年記念行事にもお招きいただきまして、私にとっても多感でございました。アドバイザーというよりは、どういう風に方向付けしていくか同じ研究科長という立場で考えていきたいと思っております。

どうぞよろしく願いいたします。

板倉： ありがとうございます。どうぞ、よろしく願い致します。

本日は、私を含め、11名の教員が参加させていただいております。出張で塚田修教授が欠席でございます。それでは私から席順に自己紹介させていただきます。なお、この席順は資料5ブルーの2014年度要覧の教員紹介の順となっております。

研究科長を務めております、板倉でございます。私の紹介は、「香川大学ビジネススクール2014年度要覧」の7ページでございます。マネジメント・システムと地域ICT・マネジメントを担当しております。どうぞよろしくお願いいたします。
それでは、原先生、よろしくお願いいたします。

原： 原真志でございます。要覧の7ページ、板倉先生の下でございます。授業担当科目は、産業クラスター論と、今年から新しくクリエイティビティと地域活性化の授業を開始しております。アートや映画といったクリエイティビティを活用した地域活性化をもっといろいろ出来ないか、と考えて始まった授業科目でございます。

実際にロサンゼルスまで行きいろいろと現地調査をしております。向こうの映画祭で現在公開中の「瀬戸内海賊物語」を紹介し、上映時に希少糖で有名なループさんのドーナツを試食していただいたところ、良い反響が得られました。こういった映画というコンテンツと県産品をコラボレーションしてやっていく事に多くの可能性があるのではないかと感じており、これからも取り組んでいきたいと思っております。

どうぞよろしくお願いいたします。

木全： 木全と申します。要覧の8ページ上の段に載っております。担当しております科目は、経営管理論と環境経営でございます。経営管理論はマネジメントの基礎的な内容を取り扱う科目で、環境経営は、私の研究にも反映しておりますが、環境と経済がどのように両立して行くのかというような内容を事例を含めながら紹介しております。また、広報関係で委員長を務めさせていただいており、要覧や情報誌といった紙媒体の作成もしております。

今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

高塚： 高塚と申します。要覧8ページの下の方にご紹介させていただいております。担当の授業科目は、統計分析と都市開発論となっております。また、公職というかたちで介させていただいておりますが、コンパクトエコシティ推進や県のほうで調査のお手伝いをさせていただいております。そういった都市の問題に関して研究をさせていただいております。管理・運営面では、入学者を集めるところから当日の試験運営までの入試関係を担当させていただいております。

昨日も高松市 人事課にお邪魔いたしまして、昨年度の受験で2名派遣させていただいておりますが、今年度以降もよろしくお願いいたします、というご挨拶に伺いました。5人の修了生の方にもお集りいただき、本研究科の改善点や期待等について意見をいただきながら懇談会を行いました。

今後とも他の企業等にも廻っていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

村山： 村山卓と申します。要覧 9 ページ下のほうになります。実務家の教員としてこの 4 月から着任しております。担当しておりますのは、地域公共政策という自治体の行政に関わる事、それから、自治体財政政策、実践型地域活性化演習を行っております。後ほど瀬戸内地域活性化プロジェクトでご説明させていただきますが自治体といろいろと連携させていただいております。

どうぞよろしくお願いいたします。

大北： 大北健一と申します。要覧 10 ページの上の方に紹介がございます。担当講義科目は、マーケティング・マネジメント、意思決定分析の 2 科目でございます。研究の方は、これまで企業間関係の取引を中心にしてまいりました。最近では、企業間関係の中でも競争のみならず協力という側面が重要になってきたことから、企業間の原理論をベースに分析をしております。

どうぞよろしくお願いいたします。

國村： 國村と申します。要覧 10 ページの下になります。こちらで教員をしておりますが、元々公認会計士で、自身で会計事務所を開設しております。こちらでは、アカウンティングとビジネス・アカウンティングを担当しております。実務家の観点から財務会計について講義を行っております。

よろしくよろしくお願いいたします。

高木： 高木と申します。要覧 11 ページの上になります。私の担当科目は、事業創造論と企業の実践型インターンシップでございます。公職の方では、県の産業活性化アドバイザーで、東京在住だったため東京チームに所属しております。高松市の方では審査員を、また、出身が高瀬ということもございまして三豊市の中小企業の審査員等を務めさせていただいております。実務家教員ですので、任期が 3 年となっております。

今年が最後となりますが、よろしくよろしくお願いいたします。

長町： 長町康平と申します。4 月より着任したばかりでございます。担当科目は、経済分析と地域経済分析の 2 科目となっております。どちらも経済学に基づく講義となっております。経済分析で基礎的な内容を地域経済分析でその応用を講義し、学生の皆様には、経済的な視点と考え方を学んでいって頂きたいと思っております。

よろしくよろしくお願いいたします。

関： 関 庚炫と申します。2012年10月に着任いたしました。担当科目は、マーケティング戦略とマーケティング・リサーチの2科目となっております。マーケティング戦略では、消費者心理、行動に基づいたマーケティングプロセスに関する基本的な概念について、また、マーケティング・リサーチでは、マーケティングにおける集計、分析方法などテクニカル的な事を中心として講義をしております。

よろしくお願いたします。

吉澤： 吉澤と申します。昨年12月に着任いたしまして、この4月より組織行動論と人事管理論を担当しております。組織の活性化や組織開発、また、キャリア支援といった領域で活動しております。

どうぞよろしくお願いたします。

板倉： 以上が本日参加させていただく者です。よろしくお願いたします。

それではまず、資料の確認をさせていただきます。全部で9点で、1.「ファイルにとじた資料」、封筒にあります、2.「座席表」、3.「出欠表」、4.黄色の「香川大学大学院地域マネジメント研究科2013年度要覧」、5.水色の「香川大学大学院地域マネジメント研究科2014年度要覧」、6.白色の「香川大学大学院地域マネジメント研究科概要2014年度版」、7.ブルーの表紙に絵がある「情報誌 地域マネジメント」、8.平成27年度入学「学生募集チラシ」(夏期・秋期・冬期)各1枚、9.黄色の「平成25年度修学案内」です。そろっていない方はいらっしゃいますか。

事前のご説明資料との主な変更点は2点ございます。第一に、ファイルにとじた資料に通し番号があります。第二に、資料8「瀬戸内地域活性化プロジェクト」でのフィールドワークの資料が一部差し替えになっております。

資料について何かご質問はございますでしょうか。

板倉： それでは、約17分程度お時間を頂戴して説明をさせていただきたいと思います。この後は、どうぞ、お食事をしながらお聞きください。(食事開始を確認)

先ほどのファイルの通し番号142ページからの[資料13]「認証評価」と通し番号176ページからの[資料14]「課題解決計画」を用いてご説明させていただきます。

時間があまりございませんので、省略しながらご説明いたします。

まず認証評価についてですが、本研究科では、5年に1度、大学基準協会で経営系専門職大学院の認証評価を受けております。昨年2013年がその評価を受ける年にあたり、大学基準協会による認証評価の基準に従い点検・評価報告書を作成し、実地調査などの点検評価を受けました。その評価結果が資料13「香川大学大学院地域マネジメント研究科地域マネジメント専攻に対する認証評価結果」であり、そのサマリーが資料13の追加ページです。資料13の追加ページにありますように本研究科は、大学基準協会の定める経営系専門職大学院基準に

適合していると認定されました。認定の期間は2014年4月1日から2019（平成31）年3月31日までです。

それでは、今回は、評価結果の概要と、課題解決計画について順にポイントをご説明させていただきます。

今回の評価結果では、「長所」1、「特色」8、「検討課題」15、改善が義務付けられる「勧告」は0でした。まず、優れた長所として取り上げられたのは、p.158の2.教育内容・方法、成果等につきまして、「修了者の評価や活躍状況を把握するため、定期的かつ継続的に派遣先組織を訪問する活動や修了生の満足度調査など詳細に行っていることは、修了生からの評価や課題を確認するとともに、学生募集の一助としても効果的な取組みであり、教育機関としてのPDCAサイクルが機能しているものとして高く評価できる。」とされており、本研究科の学生募集活動及び修了生への対応が高く評価されました。

次に、特色は次の8点が取り上げられました。

- ①地域活性化を目的とし、さらにビジネス・プロフェッショナルのみならず公共部門のプロフェッショナルや地域プロデューサー育成など地域の多様な要請に応えようとしている点。
- ②四国経済事情3科目は、固有の目的である地域活性化への貢献に有効な特色ある科目であること。
- ③複数の教員と複数の学生がグループを組み、地域企業や自治体が抱える問題について理論的かつ実践的に調査研究し、解決策を見出すことを趣旨とした「プロジェクト研究」は、特色ある取組み。
- ④地域基礎科目として設けている四国経済事情3科目に、毎回の授業の一貫性を担保する目的から、責任者かつコーディネーターを担う専任教員を配置していること。
- ⑤学生による授業評価結果が教員の教育活動評価の一つの指標として採用され、積極的に「FD研修会」を開催し、授業アンケートの科目ごとの分析から講義科目の改善を実現させていること。
- ⑥交友会館3階に学生がグループワークのできる24時間利用が可能な自習室・ラウンジが整備されていること。
- ⑦本日「アドバイザー・ボード会議」を通じて自己点検・評価の結果を説明し、検討する体制は、民間・公共両部門の地元有識者からの意見を改善サイクルに取り入れる仕組みであり、特色ある取組み。
- ⑧学生が注力している『香川大学ビジネススクール情報誌』の刊行を続けており、そのなかで常に「固有の目的」を掲載し周知する努力を行っていること。

これらの「特色」は、いずれも本研究科の特色ある取組みが評価結果に特筆された形となりました。

次に、検討課題ですが、通し番号 176 ページからの資料 14「課題解決計画」に沿って説明させていただきます。

課題解決計画とは、評価結果において「検討課題」が付された点について、課題の解決を図るために立てる計画のことで、どのような対応を行うかは原則として各大学院の判断に委ねられております。今年 9 月に大学基準協会に提出する予定でございます。また、勧告はなしという事でしたが、改善が義務付けられており、2 年後に「改善報告書」にて改善完了状況を報告する必要があります。

以上がサマリーとなっております。

次に検討課題でございますが、176 ページ 1 使命・目的・戦略に関して、3 つの検討課題が示され、それぞれについて、課題解決計画を立てました。

- 1) の固有の目的についての学内への周知が十分でないとの指摘については、本研究科の固有の目的は、平成 24 年 5 月に定めたばかりであり、これから浸透させていく段階であります。人文社会科学系における教育・研究連携や、地（知）の拠点（COC）整備事業を通して、本研究科の固有の目的等の浸透を図っていく予定です。
- 2) グローバル化に関する戦略として、実質的な「地域振興とグローバル化の融合」を図るということでございますが、それぞれの科目でグローバル化に関係していくことで、グローバルな部分のみを取り出して体系化する必要はないと考えています。
- 3) 戦略としてあげられている社会人向けの非学位プログラムの実行については、教員や部局に対するメリットが認められるよう、大学本部に要望を出していく予定です。現在非学位プログラムを開講しても、部局には収入は出ませんので、そのあたりを大学側に要望できたらと思っております。

次に、177 ページ 2.教育内容・方法、成果等に関する、6 つの検討課題とその課題解決計画についてはそれぞれ検討改善に取り組んでまいります。

次に、179 ページ 3 教員組織に関する、検討課題とその課題解決計画についてでございますが、こちらは研究業績のご報告となりますので、省略したいと思います。

次に、180 ページ 6 教育研究環境（図書資料等の整備）に関する、検討課題とその課題解決計画についてご説明いたします。

- 1) 図書館は年間を通じ 22 時まで利用可能だが、社会人学生の利便性に配慮し、図書館の利用時間の延長について、検討することが期待されるとの指摘がございます。

次に、180 ページ 7 管理運営（事務組織）に関する、検討課題とその課題解決計画についてご説明いたします。

1) 既存の学部や研究科とは異なる教育及び教員体制であるため、より独立性の高い事務組織の構築が望まれるとの指摘については、開設以来の課題であると認識しております。事務組織が法学部・経済学部事務課として一元化されていることは、事務の効率化、あるいは関係部局間の協力・連携がとりやすいというメリットがある半面、本研究科のように学部とは著しく異なる性格、具体的には、異なる授業時間、社会人学生、多数の非常勤講師などといった独自の要請に応え切れません。

全学で幸町キャンパスの事務組織の見直しが議論されており、今後も機会をとらえて、粘り強く大学本部に要求していく予定にしております。

次に、181 ページ 8 点検・評価、情報公開に関する、3つの検討課題とその課題解決計画についてご説明いたします。

1) 自己評価・点検において、貴専攻の示している7つの戦略の達成についても評価対象とすることが望まれるという指摘があります。

2) 中長期ビジョンである「地域活性化に貢献する教育・研究を進める」及び「ビジネスリーダー・パブリックプロフェッショナル・地域プロデューサーを育成する」について、自己点検・評価の対象として、その成果の検証することが望まれるとの指摘がございます。

3) 経営系専門職大学院の運営は、大学全体で共有する必要があるため、学内への情報公開・PRを実施し、理解を深めていくことが必要との指摘があります。平成26年3月に開催した本研究科の創立10周年記念行事では、各部局長にも出席頂き、本研究科の固有の目的について周知いたしました。

以上が認証評価結果と課題解決計画でございます。

さらに、185 ページにあるように、中長期ビジョンの実現に向けて、昨年同様に次のような7つの戦略を実行しています。

戦略1, 2はこれまでの特徴を生かす戦略で、連携、融合がキーワードです。

これまでの5つの融合、経営系と地域公共系の融合、理論と実務の融合、多様な学生、専任教員と非常勤講師を発展させようとするものです。

戦略3~7は、課題に対応する戦略です。

地域マネジメントの課題は、4つございます。

第1に、新しいニーズに対応する必要があります。農業、観光、医療、福祉などの新しいニーズにこたえる必要があると考えております。これが戦略3です。これに対応するために、平成25年度より、四国ツーリズム創造機構、四国経済連合会と連携し、提供公開講義「地域活性化と観光創造」を開講させていただきました。また、平成26年度後期より講義「オリーブ事業化マネジメント」を開講いたします。

さらに、縦のネットワークと横のネットワークの拡大です。

戦略5にありますように、リカレント・プログラムを通じて、縦のネットワーク、つまり、同窓会を支援していきたいということと、サテライトキャンパス等を通じて、多忙な社会人に配慮したいと考えております。また、地域的な広がり、四国全域やそれから中国地方東部からの学生の受け入れも考えております。

板倉： 次に、平成25年度地域マネジメント研究科の取り組みについて、関連する資料を用意しておりますので、こちらを用いながら、もう少し説明を加えさせていただきます。

まず、教育活動についてです。[資料—3] 通しのページで6ページの平成25・26年度入学状況について入試委員長の高塚先生より説明をお願いいたします。

高塚： それでは、[資料3] 6～9ページをご覧ください。

6、7ページは平成25年度の入試ですので、一昨年の入試状況となっております。6ページ中段にございますように、平成25年度は、入学者34名、うち24名は社会人とういことで、現在の2年生に相当致します。8～9ページは昨年度行われました平成26年度の入試状況でございます。こちらにつきましては、入学者28名、うち22名が社会人となっております。当研究科の定員は一学年30名で若干定員割れしており、この点は現在の懸念材料となっておりますが、1、2年生合わせて60名を超えておりますのでトータルとしては定員を確保出来ているという状況でございます。

様々な要因があると思われませんが、その一つとして、昨年度は電力関係の入学者を得る事が出来なかったという点がございます。今後はそういった電力関係の方々にさらにアピールして魅力を発信し、入学者が増えるよう努力していけたらと思っております。

好材料である点を二点挙げますと、一点は、8ページ上段の表にございますように女性入学者が9名となっており、比率にして33%でこれは過去最大となっております。女性が活躍している状況を考えると、非常に良い傾向ではないかと思われまます。

二点目は、8ページ下段の出身学部の表にございますが、医療福祉学部、薬学部、社会福祉学部、また、その他専門学校からも入学していただいております。非常にモチベーションも高く、既存の分野だけではなく、こういった新しい分野でも入学者を増やせていけたらと思っております。

入学状況につきましては以上でございます。

板倉： [資料—4] 10ページの平成25年度プロジェクト研究について教務委員長の原先生よりお願いいたします。

原： それでは、[資料—4] 11～12ページをご覧ください。

本研究科には、通常の大学院の修士論文に替わるものとしてプロジェクト研究というもの

がございます。主に2年生の間に行い、前期はプロジェクト演習、後期はプロジェクト研究という授業を通じて各自自らが設定したテーマについて取り組んでいきます。従来型の学術的な研究論文でもかまいませんがビジネスプランや具体的に地域活性化に取り組むといった実践的なかたちでも良いので、修士論文と呼ばずにプロジェクト研究という呼び方でやっております。そのテーマのリストが11～12ページとなっております。対象が製造業や農業といったものから、新しくIT、観光、防災、医療福祉、また、ゆるキャラなどクリエイティビティに関係するものまで非常に多岐にわたるテーマで取り組んでおります。

平成25年度は、この内優れた5件を10周年記念行事で公開の会場で発表致しました。No.5 松田さん、No.7 青江さん、No.13 景政さん、No.25 桃田さん、No.33 三井さんの5名が報告させていただきました。

また、13ページになりますが、天雲副知事に提案により、一昨年プロジェクト研究での興味深いものをいくつか選出し香川県のほうに報告させていただき県の方々との意見交換を致しました。こういった形で報告をしておりますので、地域活性化についてなんらかの参考にしていただけたら幸いです。

以上になります。

板倉： 次に、[資料-5] 14ページの授業アンケートについてご説明いたします。

14～21ページは平成25年度前期の授業評価です。

平成25年度前期は「非常に満足」(49.8%)「概ね満足」(33.2%)で、合計すると83.0%から肯定的な解答を得ております。

次に、[資料11—⑮] 92ページの公開講座「地域活性化と観光創造」についてご説明いたします。

本研究科では、平成25年度から四国経済連合会・四国ツーリズム創造機構の全面的なご支援のもと提供講義として「地域活性化と観光創造」の講義を開始しています。

平成25年度の講座登録者数は、本研究科履修生19名、修了生を含む一般参加者147名、オンデマンド配信のみの希望者15名で、延べ181名となりました。なお、各回一般の方には20～30名程参加していただきました。

今後も、農業・観光・医療福祉などの地域密着型産業に関する取り組みについて、多くのご支援を頂戴して進めたいと思っております。

次に、研究活動についてです。

[資料—6] 22ページの競争的研究資金についてご説明いたします。

科学研究費補助金の採択率は、平成25年度と26年度連続して、研究者教員の採択率は100%となっており、極めて高い水準を維持しています。

このように専任教員は、文部科学省からの研究資金のみにとどまらず、それ以外の多様

な資金源を積極的に開拓し、活発に研究活動を展開しております。

続きまして、地域・社会貢献活動についてです。

[資料-7] 23、24 ページの平成 25 年度の専任教員の兼業一覧についてですが、この一覧は非常勤講師を除く兼業のデータであります。専任教員は、ここにありますとおり地域・社会貢献活動に努めております。

[資料-10] 33 ページのかがわアグリイノベーションズシンポジウム OLIVE ALIVE in KAGAWA についてご説明いたします。

かがわアグリイノベーションズは、国立大学法人香川大学、株式会社百十四銀行、野村証券株式会社及び野村アグリプランニングアドバイザー株式会社の 3 者が、主にアグリビジネスに関連する地域産業の活性化と地域経済の発展に寄与することを目的として、協定を結び、設立した研究コンソーシアムです。

文部科学省の国立大学のミッションの再定義で、香川大学の最も特徴的な取り組みとして評価されました。

板倉： 次に、[資料 8] 25 ページの「瀬戸内地域活性化プロジェクト」のフィールドワークについて、村山先生よりお願いいたします。

村山： それでは、「瀬戸内地域活性化プロジェクト」についてご説明させていただきます。

資料 26～27 ページにございますように、「瀬戸内地域活性化プロジェクト」とは、文部科学省の COC 事業（地（知）の拠点事業）で大学等が自治体と連携し、地域を志向した教育・研究・地域貢献を進める大学を支援するプロジェクトです。全国 319 件ある中で 59 件が採択されており、四国では、高知大学とともに香川大学が昨年 8 月に採択されました。この全学の取り組みの中で、地域マネジメント研究科が地域公共政策に関するシーズを活かす事業として中核的位置を占めております。

文科省の COC 事業の内容につきましては 28 ページの概要に、平成 25 年度のプロジェクトにつきましては、概要の後ろにパンフレットを付けさせていただいております。

平成 25 年度につきましては、栗島活性化プロジェクト、高松の街活性化プロジェクト、瀬戸内クルーズプロジェクト、恋人の聖地宇多津プロジェクト、金比羅観光活性化プロジェクト、東かがわ定住促進プロジェクトという 6 つのプロジェクトを開始したところでございます。これらのプロジェクトは、事業開始初年度でもあり、採択を受けてから実施期間が非常に短いという点からイベントを中心に組み立てまいりました。

平成 26 年度の活動といたしましては、各自治体の方々との意見交換を密にし、また、その地域に根付く取り組みはとほどういったことが良いのかということを中心に検討しながら 11 個のプロジェクトを進めていくつもりでございます。

COCプロジェクト自体は、全体で5年間のプロジェクトですので、その後も地域に根付く形にしなければならないという出口を見据えながらプロジェクトを進めていきたいと思っております。

以上でございます。

板倉： 次に、[資料9] 30ページの第10回シンポジウム「瀬戸内地域活性化への提案」について、関先生よりお願いいたします。

関： それでは、シンポジウムについてご説明させていただきます。

[資料9]をご覧ください。

毎年9月に行っているシンポジウムですが、昨年度は9月29日に開催となりました。30～31ページは概要で、32ページは告知となっております。

このシンポジウムでは、学生が主体となり、問題・課題を選別しその課題に関する決定に新入生全員で取り組みました。「瀬戸内地域活性化への提案」という大きなテーマに沿って、瀬戸内海の島々といった自然環境の軸と高松市商店街の再開発を題材に、主に観光客・利用者、新たな観光ルートの構築等といった事業の軸の中で5つのテーマについてグループで取り組み、シンポジウムを通じて内外に発信いたしました。

31ページのプログラムにもございますが、また、学生による発表の後にパネルディスカッションを行い行政、企業等から4名を招いて学生による提案に対するご意見をいただきました。

今年のシンポジウムも同時期に予定されておまして、現在、ほぼ毎週新入生全員が集まりテーマの選別に取り組んでいるところでございます。今年のシンポジウムの成果につきましては、また来年度ご報告させていただきたいと思っております。

以上でございます。

板倉： 次に、[資料11—⑱] 99ページの香川ビジネス&パブリックコンペについてご説明させていただきます。

「香川を良くしたい、香川の未来に貢献したい」という思いのある方なら誰でも応募が可能であり、また、ビジネスとパブリックという2分野での事業構想だけでも良いというビジネスプラン・コンテストとして、香川の地域経済活性化を目指して進めてきました。

「香川ビジネス&パブリックコンペ2013」の公開審査が昨年12月15日に開催され、グランプリ2案、協賛企業特別賞3案を無事選出することが出来ました。ひとえに協賛企業の方々のご支援の賜物であります。グランプリに選ばれたのはビジネス部門・パブリック部門ともに本研究科の修了生、在校生で、その結果が99～100ページでございます。

香川ビジネス&パブリックコンペは、まだ始まったばかりです。新しい試みには、苦勞も伴いますが、本プロジェクトは香川の活力が大いに期待出来る幸先の良いスタートを切るこ

とが出来たと自負しております。

今後とも引き続きご支援賜りますようお願い申し上げます。

板倉： このような状況です。委員の皆様にご意見などをお伺いしたいと思います。松田委員長代理、今後の進行をどうぞお願いいたします。

松田： 限られた時間ではございましたが、先程の研究科の取り組みについてのご意見をいただきたいと思います。それでは馬場委員からお願いいたします。

馬場： 先程、高塚先生から電力関係の学生の数が減っているというお話がございましたが、配布資料にもございますように、当研究科設立以来当社から最低1人はこちらにお世話になっております。平成26年度は0という結果でしたが、これは経費削減ではなく派遣を止めた訳ではございませんので今後も引き続き社内募集していく予定でございます。

自由化も含め、電力の体制自体を大きく変えようという動きがございますが、将来的にどうなっていくのかという問題の中で若い人たちが少し萎縮しているのではないかと思う場面もございます。地域のことを考えていくということは、当社といたしましても重要な課題となっておりますので、来年度入学に関しまして秋期、冬期募集に向けて周知して参ります。

竹崎： 設立当初に比べ学生の間口が広がっておりますが、2年間の勉強の後、自分達の会社のそれぞれのフィールドに戻ったときにどういった形で成果を発揮されているのか、ということが具体的に見えてこない部分がございます。当社の継続的に派遣を行っておりますが、修了後、今の仕事とどういった関わりがあるのかをチェックする機会があまり多くございません。

また、パブリックの部門との関係はどういったものがあるのか、ということについてお尋ねしたいと思っております。

松田： 大学側から何かございますでしょうか。

高塚： 最初の方にご説明させていただきましたが、昨日市役所へ訪問し、修了生5人と懇談会をいたしました。先程、竹崎様がおっしゃられたような事をその修了生の方々も思っておられたらしく、プロジェクト研究を学んだがその後の人事がリンクしない、ということをおっしゃっておりました。人によっては1年目と2年目の学年が上がる時に配属先の部署が変わってしまい、プロジェクト研究テーマが全く違うものになってしまうため配慮して欲しいという意見もございました。

松田： 天雲委員お願いいたします。

天雲： 私どももそれなりの関連した部署に付けるように配慮しておりますが、まだまだそういった声がございますので反省しております。こちらからといたしましては、2年間の間にスキルを高めるよう協力して欲しいと思っております。

また、学生の数が減っている点に関しまして、四国唯一のビジネススクールであるからには香川県、四国だけに留まらず、対岸に向かってPRをして募集活動をごんばっていただきたいと思っております。イベント等はやっておられるようですが、例えば、冊子だけではなくメディアを使用しての勧誘、学生募集などといったあらゆるスキルを使用してやられてみてはいかがでしょうか。中身、レベルも大切ですが、人数を増やすことも大切ですので、力を入れてごんばっていただきたいと思っております。

松田： 大学側からはいかがでしょうか。

原： 確かに、県内だけではなく県外へも募集を広げていく点は、その通りだと思っております。

当初は組織や各企業からの派遣が多かったのですが、最近ではインターネットで調べて来られる方も多く、県外からの入学者は増えております。実際に大学時代に関東でベンチャー企業を設立した方が、地域に関するビジネスプランについてもっと学びたいと本研究科を選んでいただき入学された例もございます。そういった意味では、対岸を含む四国近辺ももちろんですが、関東・関西に向けて発信していくことにも可能性があるのではないかと考えております。

高塚： あらゆるメディアを使用して、というお話でしたけれども、現在本研究科のホームページの見直しもしております、一般の方々に映像コンテンツ等をご覧頂けるように改築しております。魅力を発信して行ければ良いと思っております。

松田： それでは猪原委員お願いいたします。

猪原： 私は代理出席ということですので、先程のプロジェクト研究生と研究過程中の人事配置につきましては、帰って上司に申し伝えさせていただきたいと思っております。

また、COC事業ということで、特に政策課では、今年度は4個のプロジェクトでお世話になっておりますので、どうぞよろしくをお願いいたします。

松田： よろしいでしょうか。それでは王委員よろしくをお願いいたします。

王： 10周年記念行事の際に学生の研究成果を拝見させていただきましたが、地域連携・地域密着型の教員組織の編成、並びに、学生に対する指導は見事に実現されていると感じております。そういった点でも大学機構として認証を受けたスクールとして、私どもにとって非常に

参考になるのではないかと考えております。

2、3点ご教授いただきたいのですが、修了生アンケートを実施する際、卒業生の中に当研究科で学んだことをいかして企業や組織を離れるといったようなケースは把握されているのでしょうか。それに対して大学側からは支援をしているのでしょうか。また、学んだ知識を活かして意欲的に事業を起こした場合で、社内ベンチャーではないケースが出て来た場合の扱い方、教育の姿勢、そのあり方といったものをもし具体的なケースがあれば是非教えていただきたいと思っております。

さらに入試についてですが、夏期、秋期、冬期の3回に違いはあるのでしょうか。例えば、進学者に対しては夏期といったように募集対象を変えていたり、あるいは外国籍の方の特別入試はなさっていたりするのでしょうか。ご教授いただければと思います。

松田： それでは大学側からお願いいたします。

板倉： [資料12]の109ページにありますように、もともとはIT関係の企業にお勤めされていた修了生の方ですが、実家が農家ということもございまして新しくミシマサイコという生薬で農業ビジネスの会社を起こした例もございます。アンケートで把握はしておりますが、ほとんどの方が元の企業に戻られているため転職に対する支援は現在していません。

2点目の入試につきまして、詳しくは高塚先生にお願いしたいと思っておりますが、外国籍の方に関しては特に特別な配慮はおこなっておりません。同じ条件で実施しております。また、夏期、秋期、冬期の3回とも学部卒の方による一般入試と社会人入試同時に実施しております。

それでは高塚先生お願いいたします。

高塚： 先程研究科長がおっしゃったとおり、各回の入試の定員を決めている訳ではなく、1年間30名で一定の決定的な基準をクリアすれば合格とする、といった絶対評価で合格者を決めております。7月は他の大学院でも院試が実施されている時期ですので、そちらに取られてしまわないように7月の早い段階で実施し、学生を確保したいと思っております。

松田： よろしいでしょうか。それでは私の方から意見を述べさせていただきます。

当社からも2年に1回派遣させていただいておりますが、昨年度はちょうどその期間に当たってしまったので、定員割れしたのではないかと思います。当社では大学卒業者の採用が年10人程度となっておりますので、毎年良い人材に当たるということが少ない状況でございます。

今年お付き合いさせていただいて良かったと思う点は、一つ目は、ビジネス&パブリックコンペのグランプリが当研究科の修了生、在校生だと言う点です。当社でも、彼らを必ずしも人事的に処遇しているかというところとそうでもなく、人事の都合でやっているところも無きに

しも非ずといった状況でございます。その点、当研究科は上手にマインドを引き出せたのではないかと考えております。フリーのアイデアを募集した際すばらしいアイデアが出てきたという事は、本当にこの10年間の成果が大きく反映されていると考えておりますし、10周年記念行事のパーティにも出席させていただきましたが、素晴らしいポジションに着いていらっしゃる当研究科のOBの方が多く本当に驚かされました。

本日の課題を拝見しておりますと、上手に地域との連携を取ってこられたのだと感じております。

また、百十四と野村證券によるオリーブシンポジウムですが、一般人としても非常に参加しやすいものになっておりとても良かったと考えております。こういったものをもっと広げていったらどうでしょうか。

以上でございます。

板倉： 本当にありがとうございました。他にご意見はありますか。

今後の参考になるご意見を沢山いただきましたことを、大変感謝申し上げます。今日いただきました貴重なご意見を無駄にすることなく、先生方と検討を重ね、取組んでまいりたいと考えております。今後ともご指導、ご鞭撻をいただけますようお願い申し上げます。最後のご挨拶にさせていただきます。ありがとうございました。

II. 説明資料

香川大学ビジネススクール 2013 年度 要覧・情報誌

香川大学ビジネススクール 2014 年度 要覧・概要

平成 25 年度 修学案内

学生募集チラシ

■関係資料

経営系専門職大学院一覧..... 資料 1

修了生・在校生の勤務先リスト..... 資料 2

■教育活動

1) 平成 25・26 年度入学状況..... 資料 3

2) 平成 25 年度プロジェクト研究一覧..... 資料 4

3) 授業評価アンケート結果..... 資料 5

■研究活動

競争的研究資金..... 資料 6

■地域・社会貢献活動

①平成 25 年度兼業一覧(大学の非常勤講師等を除く)..... 資料 7

②平成 25 年 4 月～平成 26 年 3 月：

「瀬戸内地域活性化プロジェクト」でのフィールドワーク..... 資料 8

③9 月 29 日：第 10 回シンポジウム..... 資料 9

「瀬戸内地域活性化への提案」

④11 月 6 日：かがわアグリイノベーションズシンポジウム..... 資料 10

OLIVE ALIVE IN KAGAWA

■おもな行事..... 資料 11

平成 25 年

- ①4月4日：入学式・新入生ガイダンス
- ②4月～7月：「地域 ICT マネジメント」全 15 回
- ③4月18日：公開講座「事業創造論」
- ④4月～7月：四国経済事情（地域活性化と地域政策）全 15 回
- ⑤4月～7月：野村証券グループ提供講義「地域開発と資本市場の役割」全 8 回
- ⑥5月11日：北九州市立大学ビジネススクール訪問
- ⑦5月18日：香川大学大学院地域マネジメント研究科リカレントプログラム
- ⑧6月：公開講座「アートと地域活性化」全 5 回
- ⑨6月29日：公開講座「イノベーション、産学連携とマーケティング戦略」
- ⑩7月17日：アドバイザーボード
- ⑪8月：夏季集中講義「地域マネジメントとファイナンス」全 15 回
- ⑫9月：四国経済事情（地域活性化と地域資源）全 15 回
- ⑬9月 22, 23 日：徳島県上勝町合宿・四国経済事情（地域活性化と地域資源）
株式会社いろどり社長 横石様による講義
- ⑭10月～1月：四国経済事情（地域活性化と企業経営）全 15 回
- ⑮10月～1月：公開講座「地域活性化と観光創造」
- ⑯11月：平成 25 年度オープンスクール・ウィーク
- ⑰11月11日：ファミリービジネスシンポジウム開催
- ⑱12月15日：香川ビジネス&パブリックコンペ開催

平成 26 年

- ⑲3月15日：プロジェクト研究報告会・10周年記念行事
- ⑳3月24日：第9期生修了式・学位記授与式

■付録..... 資料 12

- ㊤新聞・雑誌記事

■認証評価..... 資料 13

■課題解決計画..... 資料 14

■地域マネジメント研究科の将来構想..... 資料 15

Ⅲ. 出欠表

アドバイザー・ボード出欠表

	氏名	会社名・役職	出欠
経済界 (五十音順)	(委員長) 木村 大三郎	ネットヨタ高松(株)代表取締役会長 香川経済同友会 特別幹事	×
	家高 順一 (代理) 馬場 一壽	四国電力(株) 取締役副社長 四国電力(株) 執行役員 経営企画部調査役	× ○
	鴻池 正幸	大倉工業(株) 元相談役	×
	竹崎 克彦	(株)百十四銀行 会長 高松商工会議所 会頭	○
	松田 清宏	四国旅客鉄道(株) 代表取締役会長 四国ツーリズム創造機構 会長	○
行政 (五十音順)	大西 秀人 (代理) 猪原 良輔	高松市 市長 高松市政策課 主幹	× ○
	天雲 俊夫	香川県 副知事	○
大学	王 効平	北九州市立大学大学院 マネジメント研究科 研究科長	○
教員	板倉 宏昭	教授、研究科長	○
	原 真志	教授、副研究科長	○
	木全 晃	教授	○
	高塚 創	教授	○
	塚田 修	教授	×
	村山 卓	教授	○
	大北 健一	准教授	○
	國村 年	准教授	○
	高木 知巳	准教授	○
	長町 康平	准教授	○
	関 庚炫	准教授	○
吉澤 康代	講師	○	

出席者 17名